



すこやか通信



横須賀市医師会の活動

コロナ禍での病院診療 ～聖ヨゼフ病院編

社会福祉法人聖テレジア会 聖ヨゼフ病院 病院長 柴田 朋彦



2020年1月15日、わが国で初の新型コロナウイルス（COVID-19；以下コロナ）感染者が確認されました。2月、ダイヤモンドプリンセス号でコロナの集団感染が発生。船内には多くの感染者がおり、医師会の要請に応じて当院から同船へ医師の派遣を行いました。この時点でコロナは遠い存在で無くなり、通常診療に加えコロナへの対応が始まりました。3月、病院の建て替えが終了し80年以上の歴史を持つ旧棟から新棟へ病院機能は移転しました。その頃、県内では徐々に感染が拡大。内覧会は中止され少人数で竣工式だけを執り行いました。その後、各地でクラスターが発生。忍び寄るコロナの気配を感じながら、院内感染をどうやって防いでいくか検討を重ねました。病院には多くの患者さんが入院しています。一人でも感染者が出ると、あっという間に感染は病棟全体に広がります。その大半が高齢者であり重症化リスクが高く命の危険にさらされます。職員に対してマスク、手指消毒の徹底を行い、患者さんが入院する際はPCR検査を実施するようになりました。また、入院患者さんに対して面会制限を開始しました。面会制限は患者さんと御家族を引き離すことになり、精神的に非常に辛いものとなりました。私たちはWEBでの面会を併用しつつ、コロナが流行の波を越えたわずかな合間に対面での面会を実施してきました。

市内では3大病院（横須賀共済・うわまち・市民病院）でコロナの急性期治療が行われました。当院では、3大病院から急性期治療を終えた感染者の受け入れを積極的に行いました。また、発熱外来の開設や疑似症の入院受け入れを開始。さらに、ワクチン接種も積極的に行い、一日100名以上の方に接種を実施しました。

2021年10月、第5波の最中、県と医師会の要請で重症化リスクの高い感染者に対する中和抗体療法を開始しました。当初、中和抗体療法は非常に効果がありましたが、変異を繰り返すコロナに対して次第に有効性は薄れていきました。

2022年8月、第7波が到来した頃、感染者の増加からコロナ病床の不足が深刻となり、当院でも軽症コロナ感染者の入院受け入れを開始しました。当時流行していたオミクロン株は、重症化リスクが低いものの、高齢者に感染した場合に持病の悪化や衰弱を来す事がしばしばありました。コロナに感染したすべての方々が、人工呼吸などの高度医療が必要となるわけではなく、また延命治療を希望されているわけではありません。我々は当院で出来る治療の範囲内で、患者さんに寄り添い点滴や酸素投与を行い回復のお手伝いをしております。

横須賀は保健所、市役所、消防、医師会、さらに病院間の連携が良く取れており、市内の病院は医療崩壊する事無く今日まで診療を継続しております。明けない夜はありません。皆さんとwith コロナの時代を乗り切りましょう。

漢方 (2)

久里浜漢方内科クリニック 小野村 雅 久



消化器病と漢方医学

西洋医学では、病名診断の上に治療が成り立つことが多いのですが、漢方医学では、病気を起こしている個人の生体反応を体質ごとに分け、「証（しょう）」として捉えます。

漢方治療の根幹をなす重要な基礎概念に「陰陽（いんよう）」「虚実（きょじつ）」があります。簡単に捉えれば「陰証（いんしょう）」は体が冷えた状態、寒がりの状態です。「陽証（ようしょう）」は体が熱を持った状態、暑がりの状態です。「虚証（きょしょう）」は体力が不足した状態、抗病力が少ない状況です。「実証（じっしょう）」は体力が充実し抗病力が過剰な状態です。

その他にも、寒熱、気血水（きけつすい）、五臓などの概念を駆使して漢方では治療にあたります。

紀元前1～2世紀の古代中国で著された「黄帝内系（こうていだいけい）」という医学書によれば、消化管は「倉廩（そうりん）」の管と呼ばれ、口から入った飲食物を消化吸收し五臓六腑に栄養分を分配しその精気『後天の気（こうてんのき）』を養う機能を担っているとされます。（ちなみに親から受け継いだ『先天の気（せんてんのき）』は腎（じん）に宿ります）この考えに従えば、消化管機能が低下した人は様々な消化器系の不調だけでなく、心（こころ）も含めた全身的な不調を併発しやすいということになります。

漢方ではこのように全身状態との関連に消化機能を重視する考え方があります。中国の金元時代に活躍した李東垣（りとうえん）はその著述「脾胃論（ひいろん）」の中であらゆる病は脾胃の衰えに由来すると述べています。人が生命活動を行ってゆく上で、必要不可欠な「気」の中でも大切な水穀の気（すいこくのき）は消化管から吸収され全身に巡らされます。消化機能が低下すると「気」を十分に取らぬ、全身に気が廻らないので「気虚（ききょ）」という状態に陥ることがあります。消化管自体の活動が低下した状態を「脾虚（ひきょ）」という場合もあります。このような状態では元気や気力がなく疲れやすい、だるい、寝汗をかくなどの症状が表れやすくなります。

「気」は気・血・水（きけつすい）の巡りの重要な働きをしているので様々な面に影響を及ぼします。例えば「血（けつ）」は単なる血液のみならず、皮膚の潤いや髪の毛などにも関係してきます。「水（すい）」は気によって体の中を絶えず巡っている状態が理想的で、気虚によって水（すい）が鬱滞したり局在すると「水毒（すいどく）」という水分代謝異常などにつながります。

泌尿器科 (3)

よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック 院長 奥井伸雄



過活動膀胱の治療

「尿を我慢できない」「トイレの回数が多い」という症状で悩んでいませんか？ 過活動膀胱という症状かもしれません。医師に相談する時の参考として、自分でチェックしておくことができます。全部で4問あります。

- 1 朝起きた時から夜寝る時までに、何回くらい尿をしましたか？
 7回以下 8～14回 15回以上
- 2 夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか？
 0回 1回 2回 3回以上
- 3 急に尿がしたくなり、我慢が難しいことがありましたか？
 ない 週に1回より少ない 週に1回以上 1日1回くらい
 1日2～4回 1日5回以上
- 4 急に尿がしたくなり、我慢できずに尿をもらすことがありましたか？
 ない 週に1回より少ない 週に1回以上 1日1回くらい
 1日2～4回 1日5回以上

みなさん、症状はたくさんありましたか？ 医師はこの質問票に点数をつけて評価をします。そして、点数が高いと重症の過活動膀胱として、どのような治療が必要か考えていきます。

慎重に診断をする場合、ウロダイナミック・スタディという膀胱の神経を調べる検査をします。腹部に心電図のようなシールを貼り、尿道に細いカテーテルを入れて内圧と電気を測定するのです。排尿に必要な電気信号以外に余分な信号がないかを知ることができます。

まず生活改善を促します。カフェインの削減、水分摂取量の変更、減量、膀胱訓練、骨盤底筋体操などです。

そして、飲み薬や貼り薬による治療が行われます。この薬には、抗コリン薬とβ3（ベータスリー）作動薬という2種類あります。

抗コリン薬は、膀胱に作用する神経からの物質アセチルコリンを抑え、膀胱の過剰な収縮を抑えます。しかし、副作用が強く、口渇、便秘、緑内障の悪化、認知症（薬によります）がありえます。β3作動薬は、膀胱の筋肉をゆるませるノルアドレナリンという物質の作用に働きかけます。こちらは、高血圧などの心臓への負担がおこる薬剤があります。

これらの薬剤で十分な効果が得られないときや、薬剤の副作用が心配な場合は、膀胱に直接薬を注射する方法を勧めます。これは、ボツリヌス療法と言い、膀胱の異常な収縮を抑えます。内視鏡を用い外来で治療可能です。治療にはほとんど副作用がなく、数分でおわり、治療後に普段の生活が可能です。

このほかに、電気や磁気により膀胱や尿道の機能を調整する治療法（体内植込み型の刺激装置など）もあります。

横須賀市救急医療センター



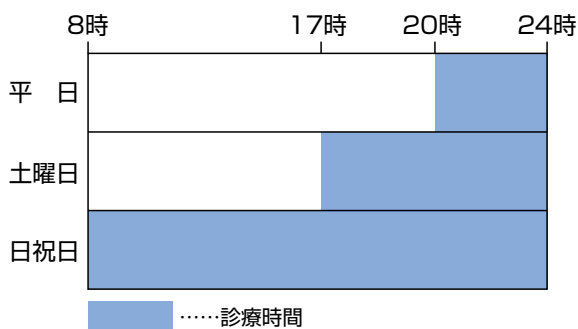
診療科目 内科・小児科・外科

〒238-0005 横須賀市新港町1-11

☎824-3001

横須賀市救急医療センターは、横須賀市医師会が管理・運営をしております。
横須賀市医師会では、市民の皆様安心していただける
質の高い医療を提供しております。

診療時間



年末年始 12月29日16時～
1月4日8時まで24時間診療

案内図



横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるよう

これからも努力していくつもりでありますので、

よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。

横須賀市医師会
モバイルサイト



<http://yokosukashi-med.or.jp/mobile/>

一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534